



不登校でお悩みの方へ
小児病棟のご案内

悩みの種を
希望の芽に

ここから
もう一度
スタートしても
遅くないよ

小さな箱に
いないで
広い外に
出ようよ!

つまづいたら
ここへ来い
また立ち上がれる

※入院していた子供たちが
寄せてくれたメッセージです。



独立行政法人 国立病院機構
富山病院

National Hospital Organization Toyama Hospital

どうして入院するの？

日常生活に困ることがあり、それを解決するために入院治療が必要と判断された子供たちが入院しています。

例えば以下のような理由があります。

- 不登校が長引き、家庭では生活リズムが治らない。
- 頭痛や腹痛などの体の症状のために学校に通えない。
- 肥満や痩せの治療が必要なため。
- 慢性身体疾患の治療が必要だけど、学校にも通いたい。



どんな子たちが入院するの？

小学生・中学生・高校生で、一般の学校生活を続けながら治療することが難しいと判断された患者さんに入院をお勧めしています。

家庭を離れて入院生活を送ることになるため、短期の試験入院を経験してから、長期入院が可能かどうか判断しています。



入院治療ってどんなことをするの？

まず今までの育ち方、本人の様子、診察、検査などから本人の状態に医学的診断がなされ、本人に合わせて、治療の方向性を検討します。

入院治療は隣接するふるさと支援学校での教育と連携して、その子本来の成長を支援していくことが目的です。そのために、ご家族に協力をお願いすることもあります。

具体的には

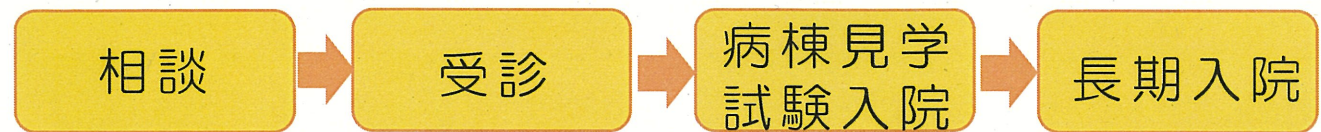
- 身体疾患の治療（薬物治療、生活指導など）
- 集団生活の中で生活リズムを修正する。
- スタッフや患者同士など、対人関係の経験を積む。
- 生活能力を身につけ、自立した日常生活を送れるように支援する。
- 本人や家族と話し合い、治療経過を確認し、今後の課題を見つけ、見通しを立てる。



※頻度の高い診断名
適応障害、不安障害、チック障害、摂食障害、身体表現性障害
注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害、軽度知的障害
起立性調節障害、過敏性腸症候群、睡眠障害、肥満症、糖尿病、
てんかん



相談から入院までの流れ



ソーシャルワーカー
がお聞きします。

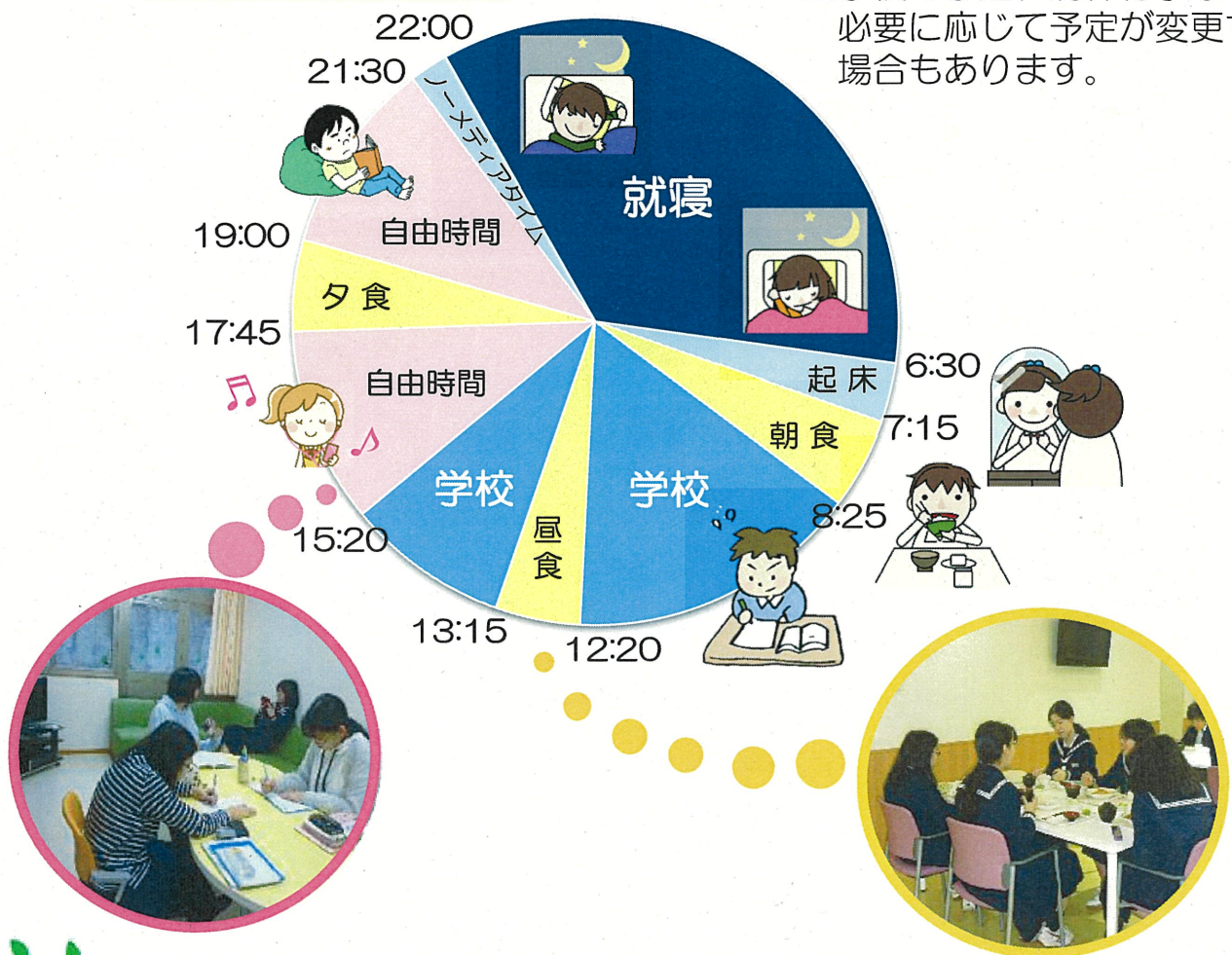
医師の診察・
検査・通院治療

入院生活を実際に
見学・体験します。

※患者さんによっては外来通院を継続する場合があります。

病棟の1日

※学校の予定、病棟行事など、
必要に応じて予定が変更する
場合もあります。



入院中の学習環境

長期入院が必要と判断された場合に、隣接するふるさと支援学校に転入学し、教育を受けることができます。症状がよくなり、通学できる環境が整えば、地域の学校に戻ることも高校への編入学、進学が可能となります。
※ふるさと支援学校は富山病院入院患者さんだけの病弱特別支援学校です。

退院者(卒業生)の進路状況

小学部	地元 中学	ふるさと支援 中学部	他の特別 支援学校	計	中学部	県立 高校	私立 高校	ふるさと支援 高等部	他の特別 支援学校	その他	計
H29年度	0	0	1	1	H29年度	3	0	2	1	0	6
H30年度	1	0	0	1	H30年度	2	2	0	1	1	6
R1年度	0	0	1	1	R1年度	4	3	3	0	0	10
R2年度	0	0	0	0	R2年度	2	0	1	1	0	4

高等部	大学	短期大学	専門学校 (専攻科含)	就職	福祉 サービス	計
H29年度	0	0	3	1	2	6
H30年度	1	1	2	1	0	5
R1年度	0	0	1	1	2	4
R2年度	1	1	3	0	2	7



入院費用について

医療費、食事代、保険適応外の費用（文書料、選択食など）がかかります。医療費は以下の制度を利用することで自己負担額が軽減されます。市町村によって助成方法や条件が異なりますので、詳しくは当院ソーシャルワーカーまたは市町村へお問い合わせください。

- ・ 限度額適用認定証
- ・ こども医療費助成制度
- ・ ひとり親家庭等助成制度
- ・ 小児慢性特定疾患医療助成制度

独立行政法人
国立病院機構 富山病院

〒939-2692
富山県富山市婦中町新町3145
TEL 076-469-2135
FAX 076-469-5616
<https://toyama.hosp.go.jp>
相談窓口：地域連携室

